

平成21年度

災害ボランティア活動の安全衛生に関する調査

目次

はじめに	1
I. 調査概要	2
1-1. 調査概要	3
1-2. 調査対象の災害ボランティアセンター一覧	4
II. 調査結果	5
2-1. 安全衛生に関する資機材・物資について	6
2-2. ボランティア活動者に対する安全衛生に関する配慮	11
2-3. ボランティア活動時において発生したケガ・疾病	16
III. 資料編	23
3-1. 安全衛生のために使われる資機材・物資の例	23
3-2. アンケート調査票	24

内閣府（防災担当）

平成22年3月

はじめに

本調査は、災害ボランティアセンターの設置・運営等についての実態の把握を行い、災害発生時におけるすみやかな対応や課題解決のための基礎資料とすることを目的としています。

調査にあたっては、災害ボランティアセンターの設置・運営等に関わった都道府県・市町村社会福祉協議会、全国社会福祉協議会など多くの関係者の方々にご協力をいただいております。

I . 調查概要

Ⅰ．調査概要

Ⅰ－Ⅰ．調査概要

本調査は、平成 21 年に設置された災害ボランティアセンター（以下、センターとする。）を対象に、災害時のボランティア活動の安全衛生に関する対応等について、その現状や課題の把握を行うため、各センターの主体と考えられる社会福祉協議会（以下、社協とする。）に対して、アンケート調査を実施した。

なお、本調査では全国社会福祉協議会が把握しているセンターを対象とした。

実施期間	平成 22 年 2 月 22 日～3 月 19 日
対 象	平成 21 年に設置された災害ボランティアセンター
調査方法	担当部局（全国社会福祉協議会、センターが設置された都道府県社協）へのアンケート調査（郵送及び F A X）
回 収	都道府県レベル 5 センター中 5 センター 市区町村レベル 10 センター中 10 センター

1-2. 調査対象の災害ボランティアセンター一覧

調査対象のセンターは、表 1-1 のとおりである。

山口県に関しては、防府市と山口市の後方支援にあたったために、センターは設置されていたが、ボランティアのコーディネート等の業務は行っていないため、本調査の母数からは除外した。また、京都府と京都市のボランティアセンターに関しては、平成 21 年台風第 9 号被災地へのボランティア派遣業務のみを行ったため、本調査の対象からは除外した。

■表 1-1 平成 21 年度設置・運営が確認された災害ボランティアセンター一覧

	都道府県	市町村名	正式名称	活動期間	災害名
1	兵庫県	佐用町	佐用町防災ボランティアセンター	平成 21 年 8 月 10 日～8 月 31 日	台風第 9 号
2	兵庫県	宍粟市	宍粟市災害ボランティアセンター	平成 21 年 8 月 11 日～8 月 25 日	
3	兵庫県	—	災害救援ボランティア支援センター	平成 21 年 8 月 10 日～8 月 31 日	
4	岡山県	美作市	美作水害ボランティアセンター	平成 21 年 8 月 12 日～8 月 28 日	
5	兵庫県	朝来市	朝来市災害ボランティアセンター	平成 21 年 8 月 11 日～9 月 25 日	
6	長野県	諏訪市	諏訪市災害ボランティアセンター	平成 21 年 8 月 10 日～8 月 12 日	
7	山口県	防府市	防府市・佐波川流域災害ボランティアセンター	平成 21 年 7 月 23 日～8 月 24 日	平成 21 年 7 中国・九州北部豪雨
8	山口県	—	—	—	
9	山口県	山口市	山口市災害ボランティアセンター	平成 21 年 7 月 29 日～8 月 24 日	
10	佐賀県	—	佐賀県民災害ボランティアセンター	常設(現地*1 稼働日数 1 日・平成 21 年 8 月 7 日)	
11	福岡県	飯塚市	飯塚市社会福祉協議会・災害救援ボランティアセンター	平成 21 年 7 月 25 日～8 月 17 日	
12	福岡県	—	被災地支援災害ボランティアセンター	平成 21 年 7 月 25 日～7 月 30 日	
13	福岡県	那珂川町	那珂川町社会福祉協議会災害ボランティアセンター	平成 21 年 7 月 28 日～8 月 7 日	
14	京都府	—	—	—	
15	京都府	京都市	京都市災害ボランティアセンター	常設	台風第 9 号 (支援)

*1 神埼市社会福祉協議会内に事務局が設置された。

Ⅱ. 調査結果

II. 調査結果

2-1. 安全衛生に関する資機材・物資について

(1) 調達した資機材・物資と調達先

被災地でのボランティア活動の安全衛生を確保するためには、活動者の装備品や作業後の衛生管理面について、センター側で準備しておくことが重要である。

安全衛生に必要な資機材・物資のリストは、表 2-1 のようなものが考えられる。

これらの資機材・物資の調達の状況について調査した。

■ 表 2-1 安全衛生に必要な資機材・物資

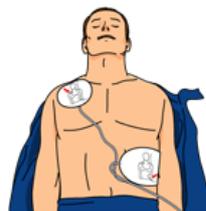
作業中	個人	<ul style="list-style-type: none">・ヘルメット・防塵（ぼうじん）ゴーグル・防塵（ぼうじん）マスク・通常のマスク・軍手・ゴム引き手袋（荷運び向け）・ゴム手袋（防水）・革手袋・安全靴（つま先や靴底に鉄板等が入ったもの）・タオル・ペットボトルの水・（熱中症予防の）塩分など
	グループ	<ul style="list-style-type: none">・救急セット・連絡用の携帯電話・トランシーバー・AED（自動体外式除細動器）*1
作業後	センター	<ul style="list-style-type: none">・消毒液・うがい薬・高圧洗浄機（汚泥等を洗い流す）*2

（P25「安全衛生のために使われる資機材・物資の例」を参照）

*1 AED(Automated External Defibrillator: 自動体外式除細動器)とは

突然心停止状態に陥った人に対して、電気ショックを与えて、心臓を正常な状態に戻す医療機器。

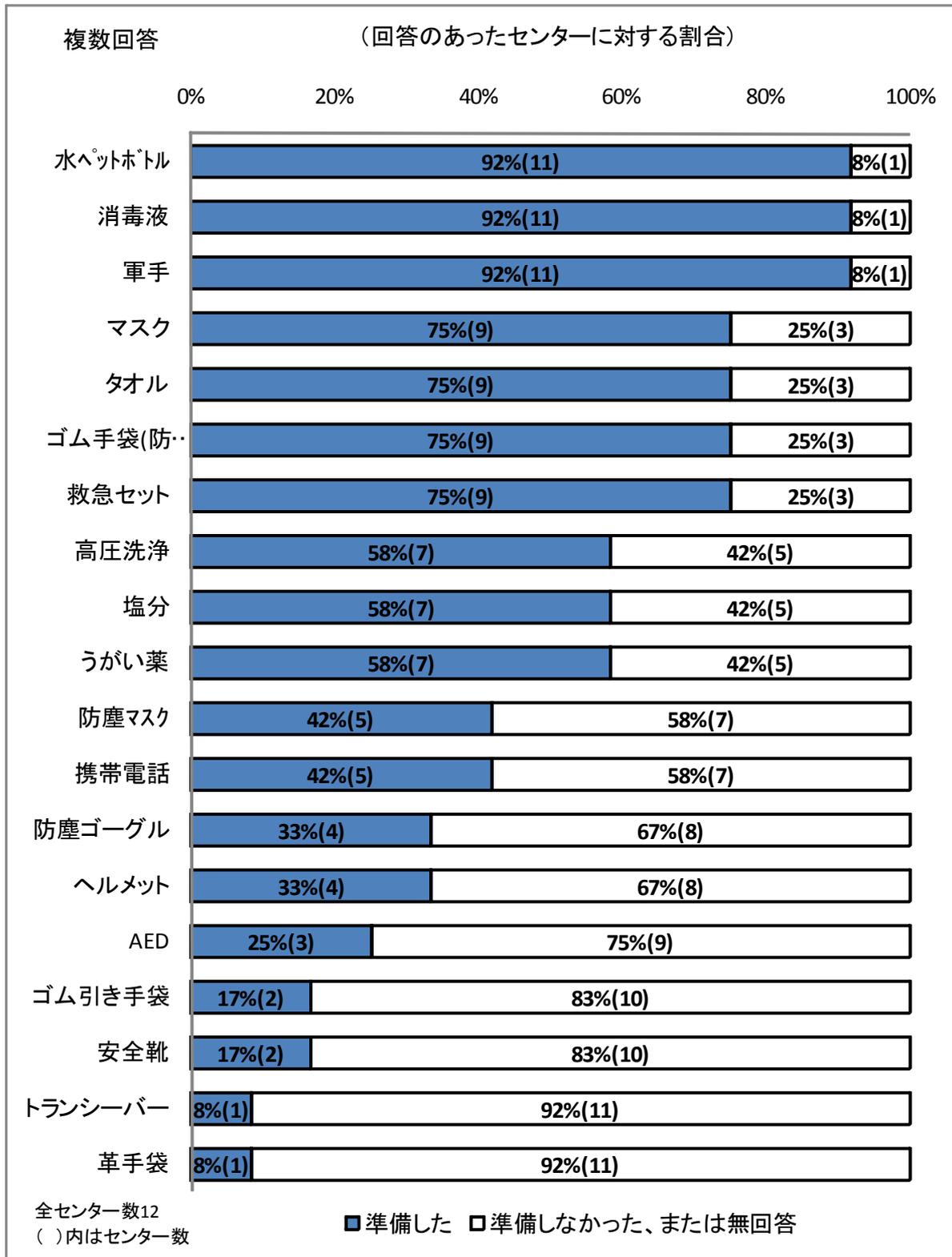
平成 16 年より、一般の人も使えるようになったため、各地で一般市民向けの講習が開かれている。



（日本赤十字社ホームページ等より作成）

センターで準備した資機材・物資について、問1の質問に対して、図2-1とおおりであった。

問 1 災害ボランティアセンター(以下、「センター」と呼ぶ)等で準備した用品につき、回答欄に○を入れ、その大まかな数量と、主な調達先をお答えください。調達先については、「備蓄済み」「(・・・)から受領」「地元商店から購入」等とお書きください。



■ 図 2-1 センター等で準備した安全衛生に関する資機材・物資

ほとんどのセンターが準備していた資機材・物資

- ・「水ペットボトル」(12センター中 11センター)
- ・「消毒液」(12センター中 11センター)
- ・「軍手」(12センター中 11センター)

センターがあまり準備していなかった資機材・物資

- ・「ゴム引き手袋」「安全靴」(12センター中 2センター)
- ・「トランシーバー」「革手袋」(12センター中 1センター)

表 2-1 の他に、安全衛生に関する資機材・物資として、自由回答で記述があったものは、表 2-2 のとおりである。

■ 表 2-2 その他自由回答(安全衛生に関する資機材・物資)

分類	その他、自由回答(資機材・物資)
作業中に用いるもの	「スコップ」 「長靴」 「ヘッドランプ」
その他	「飴」

コラム 2 「高圧洗浄機」

高圧で水を噴射し、泥等の洗浄を行うのに有効な機材。用途によって使い分ける必要があるため、適切なサイズを選ぶ必要がある。

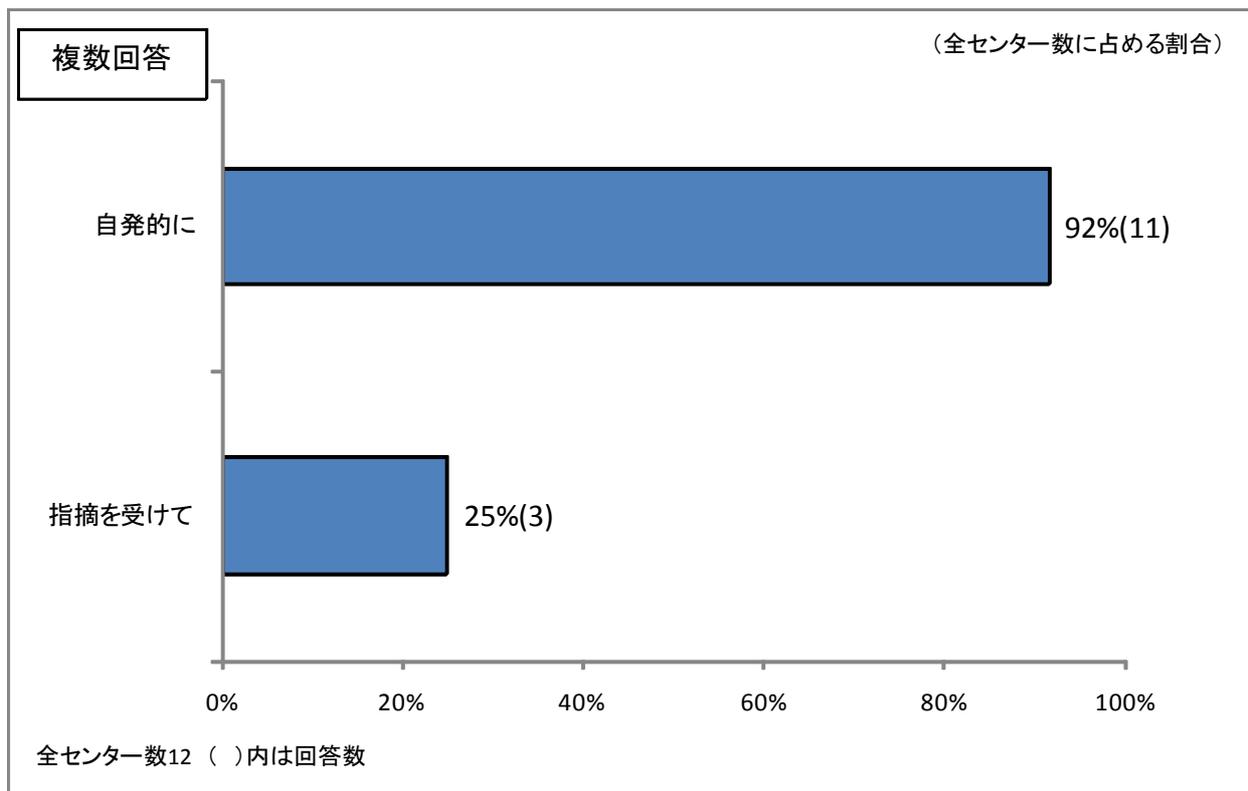
高圧洗浄機の例	活動後の長靴の洗浄	活動先の家屋の洗浄
		

(2) 調達の手続き

安全衛生に関する資機材・物資について、調達に至ったきっかけについて、問2に対して、図2-2のとおりであった。

問2 調達したきっかけはどのようなものですか。

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1) ボランティアや関係者から必要との指摘を受けて | 2) センター(スタッフ)が必要と判断し自発的に |
| 3) マニュアルや規定等であらかじめ決められていたため | 4) その他 |



■ 図2-2 調達に至ったきっかけ

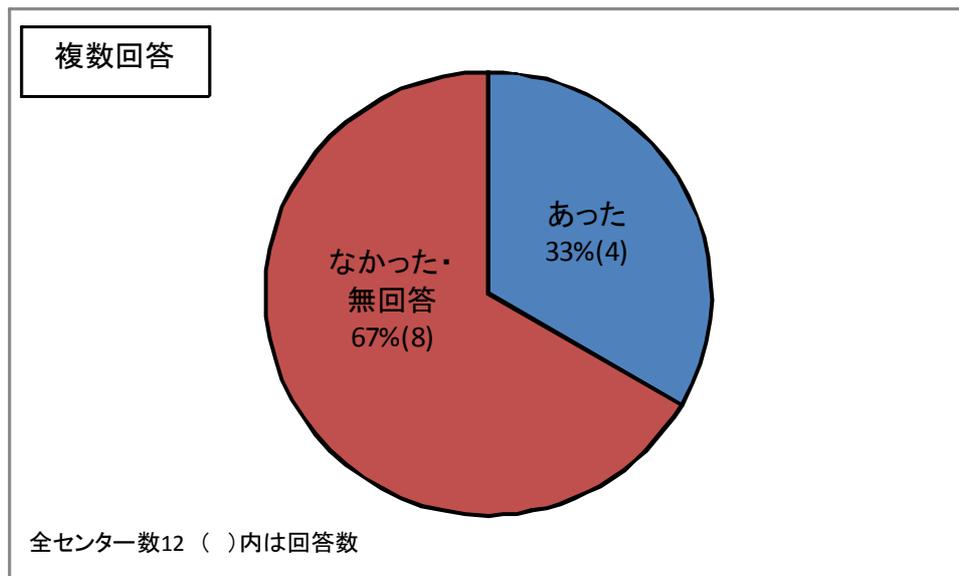
「2)センター(スタッフ)が必要と判断し自発的に」資機材・物資等を調達したという回答が多くみられた。「3) マニュアルや規定等であらかじめ決められていたため」、「4) その他」との回答はなかった。

(3) 調達時に困ったこと

安全衛生に関する資機材・物資の調達時に困ったことについて、問3の質問に対して、図2-3のとおりであった。

問3 調達の際に困ったことはありますか。(複数回答可)。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1) 購入調達先が分からなかった | 2) 購入調達先のための資金が足りなかった |
| 3) 想定した購入調達量が確保できなかった | 4) その他 |



■ 図 2-3 調達時の困ったことの有無

資機材・物資の調達の際に困ったことがあったセンターは4センターあり、そのうち全てのセンターが「3) 想定した購入調達量が確保できなかった」と回答している。また、「資金があれば調達したかったもの」の質問に対して、「雨合羽、殺虫剤」を調達したかったという意見があった。

その他、センターの安全衛生に必要な資機材・物資等について聞いたところ、「ボランティアが横になれる休憩所・簡易ベッド」や「熱射病予防のために必要な物資（ペットボトルの水、お茶、塩あめ、氷）」という意見もあった。

2-2. ボランティア活動者に対する安全衛生に関する配慮

(1) 各センターにおけるケガ・疾病の予防、健康管理面での配慮について

各センターにおけるケガ・疾病の予防や健康管理面での配慮について、問4に対して、図2-4、図2-5、図2-6、図2-7のとおりであった。

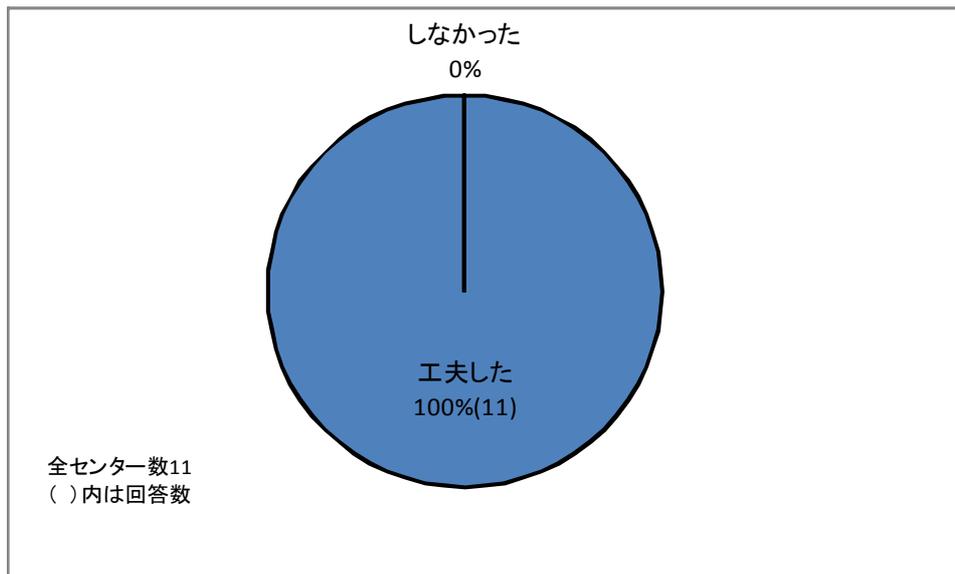
問4 災害ボランティア活動時のケガ・疾病予防や健康管理方法について、参加者等に周知したことがあれば、その内容と周知策を、すべてご記入下さい。

【周知内容】

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| A 活動環境(被災地の被害状況・天候など) | B 必要な服装・装備・作業所銃の心構え |
| C 作業手順等 | D ケガ、疾病時の応急手当方法 |
| E ケガ、疾病時の現地連絡先(救護所など) | F 一定時間おきの休憩 |
| G 天候急変時の対応 | |

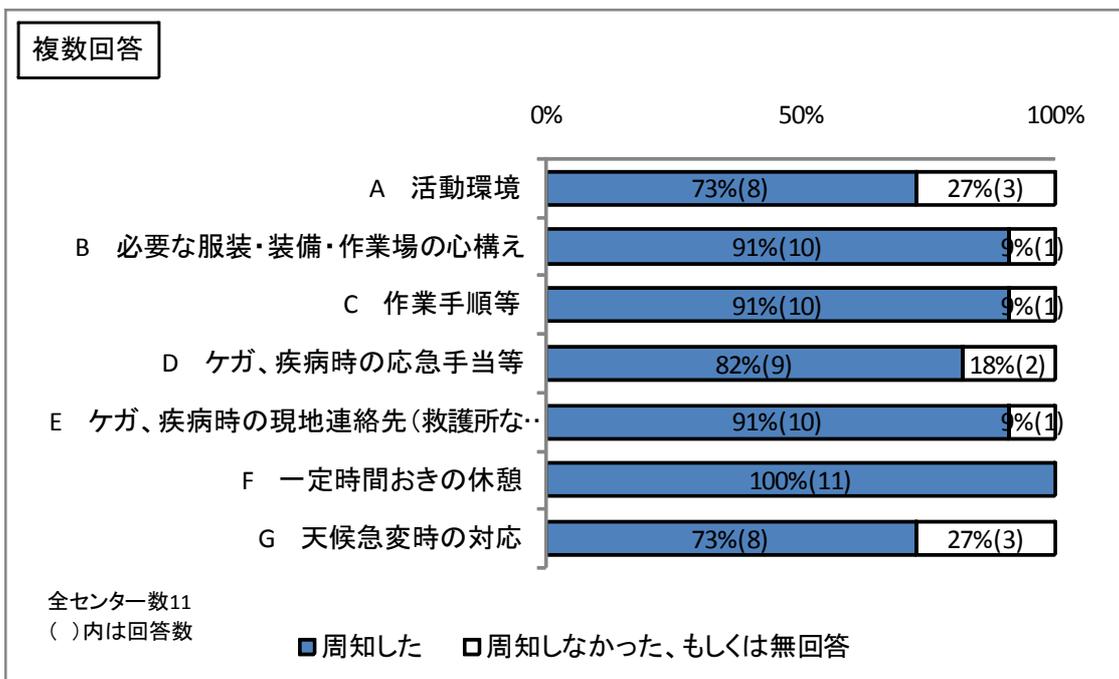
【周知策】

- | | |
|--------------------|-----------------|
| ① 特に周知のための手当はしなかった | ② センター内に張り紙等で掲示 |
| ③ 参加者に紙で配付 | ④ 参加者向けの説明会を実施 |
| ⑤ 現場リーダーに通達 | ⑥ インターネットに掲示 |



■ 図2-4 安全衛生面に関してなんらかの工夫をしたセンター

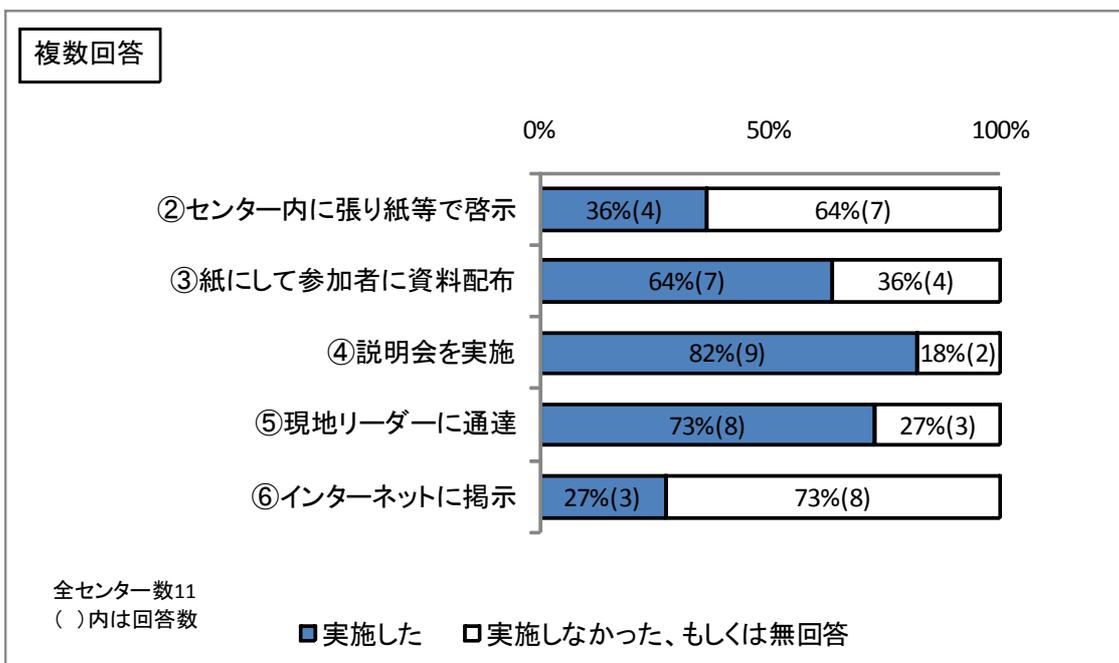
すべてのセンターにおいて、ケガ・疾病予防や健康管理方法について、何らかの配慮を行っており、その配慮の内容については図2-5のとおりであった。



■ 図 2-5 ケガ、疾病の予防・健康管理面での配慮の実施の有無

「F）一定時間おきの休憩」は、すべてのセンターで周知していた。「B）必要な服装・装備・作業場の心構え」、「C）作業手順等」、「E）ケガ、疾病時の現地連絡先」は、11センター中10センターで周知していた。「D）ケガ、疾病時の応急手当等」は9センターで、「A）活動環境」、「G）天候急変時の対応」は、8センターで周知していた。

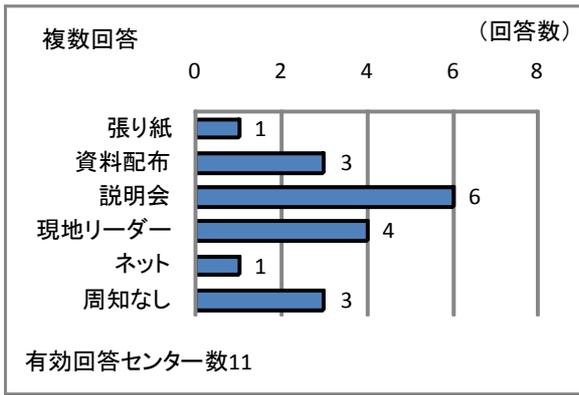
ケガ・疾病の予防・健康管理方法の周知方法については、図 2-6 のとおりであった。



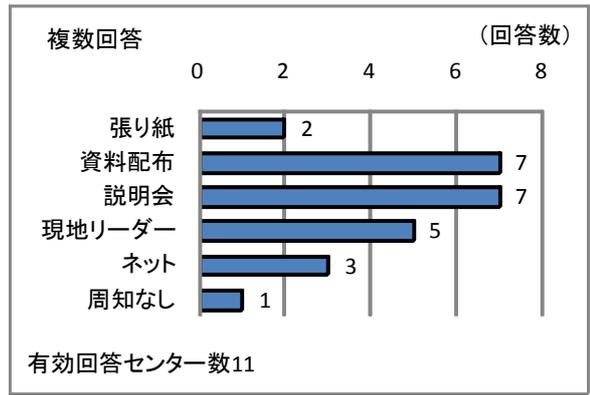
■ 図 2-6 ケガ、疾病の予防・健康管理に関する周知方法

「④説明会を実施」が一番多く、次いで「⑤現地リーダーに通達」や「③紙にして参加者に資料配布」などが多かった。

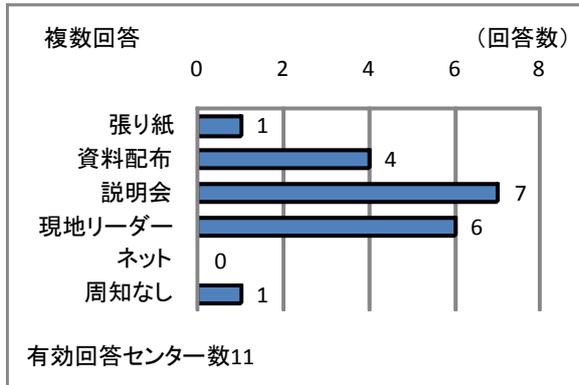
1) 活動環境(被災地の被害状況・天候など)



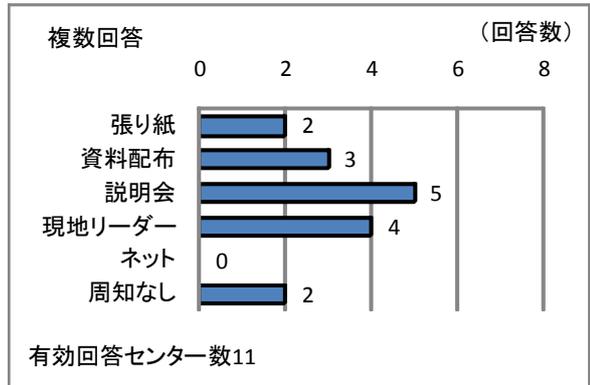
2) 必要な服装・装備・作業上の心構え



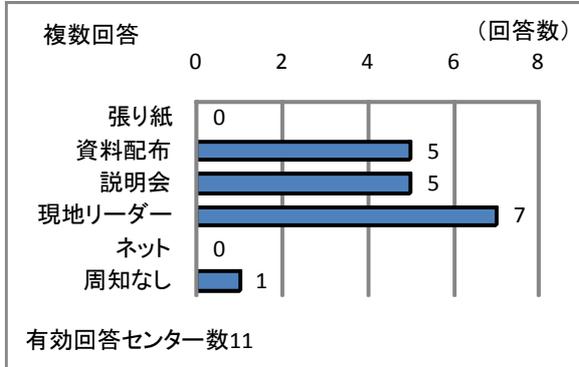
3) 作業手順等



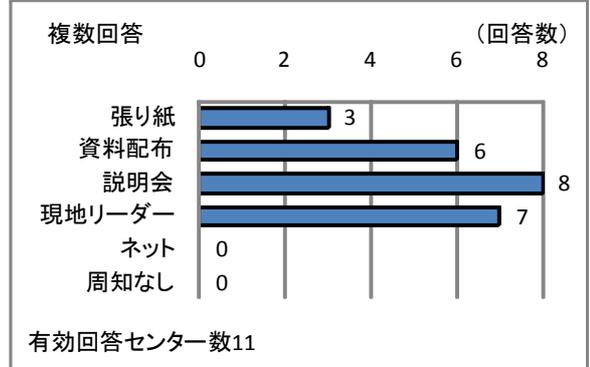
4) ケガ、疾病時の応急手当方法



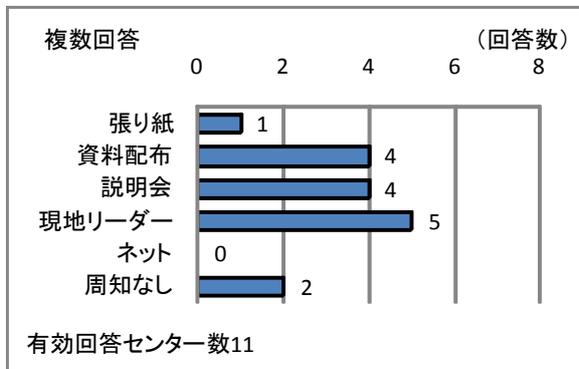
5) ケガ、疾病時の現地連絡先(センターの救護所等)



6) 必ず一定時間おきに休憩をとること



7) 天候急変時の対応



【凡例】

- 張り紙 : センター内に張り紙等で掲示
- 資料配付 : 参加者への資料配付
- 説明会 : 説明会の開催
- 現場リーダー : 現場リーダーへの通達
- ネット : インターネットに掲示

■ 図 2-7 周知内容に対するそれぞれの周知方法

図 2-7 の 1)~7)を整理すると以下のとおり。

1) 活動環境

説明会の開催が 11 センター中 6 センター、次いで、資料配布や現場リーダーへの通知が 4 センターで行われた。

2) 必要な服装・装備・作業場の心構え

参加者への資料配布と説明会の開催が 11 センター中 7 センターで行われ最も多く、次いで、現地リーダーへの周知が 5 センターで行われていた。

3) 作業手順等

作業手順等については、説明会が 11 センター中 7 センターで行われており、次いで、現場リーダーへの通知が 6 センターで行われていた。

また、インターネットに掲載し、周知を図ったセンターはなかった。

4) ケガ、疾病時の応急手当方法

11 センター中 5 センターは説明会の開催で全体周知を図っていた。

5) ケガ、疾病時の現地連絡先（センターの救護所等）

現地連絡先は、7 センターで現場リーダーへの通知によって周知をしていた。次いで、説明会や資料配布で通知した例が多かった。

6) 必ず一定時間おきに休憩をとること

休憩の周知については、説明会の開催が 8 センターにて行われていた。また、参加者への資料配布、現場リーダーへの通知、センター内に張り紙等で提示によってすべてのセンターで周知された。

7) 天候急変時の対応

天候に関しては、現場リーダーへの通知による周知が 5 センターで、その他にも、参加者への資料配付や説明会の開催、センター内に張り紙等で掲示による周知が行われていた。

(2) その他安全衛生面に関する配慮事項

その他、活動時のケガ・疾病予防方法の周知について、問 5 を聞いたところ以下の回答があった。

問 5 その他、活動時のケガ・疾病予防方法の周知のための方策があればご記入ください。(自由回答)

■ 表 2-3 その他安全衛生面に関する配慮事項(自由回答)

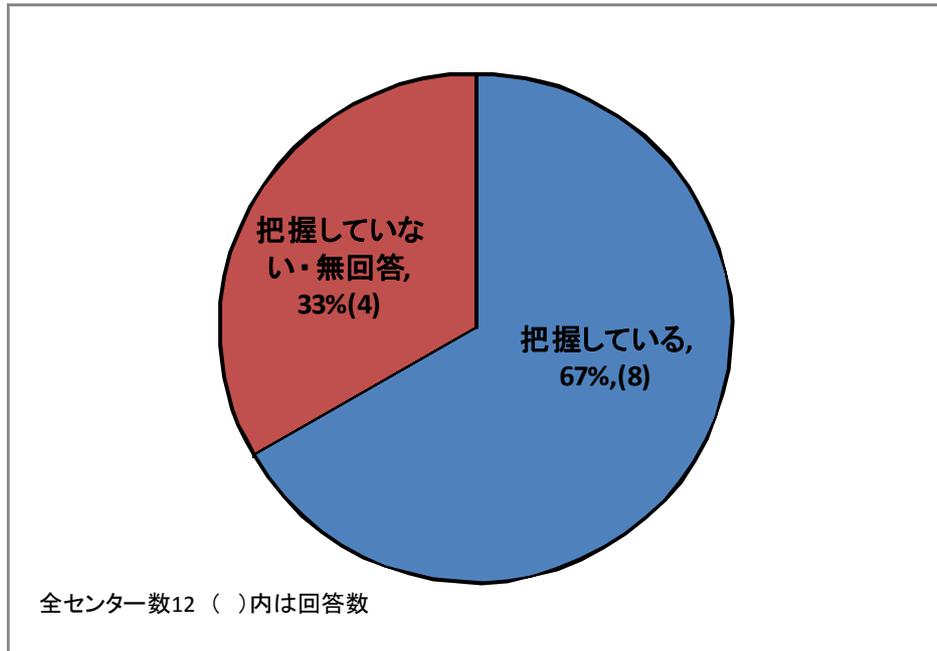
	対 策 の 内 容
活動中	・ 救護班を設置し、現地へ巡回してまわった。特に夏だったので熱射病対策のための指導にあたった。水分補給と氷の手配を充分行った。

2-3. ボランティア活動時において発生したケガ・疾病

(1) 発生したケガ・疾病

ボランティア活動時において発生したケガ・疾病について、問6の質問に対しては、図2-8のとおりであった。

問6 センターとして活動中の、ケガ・疾病について把握していましたか。

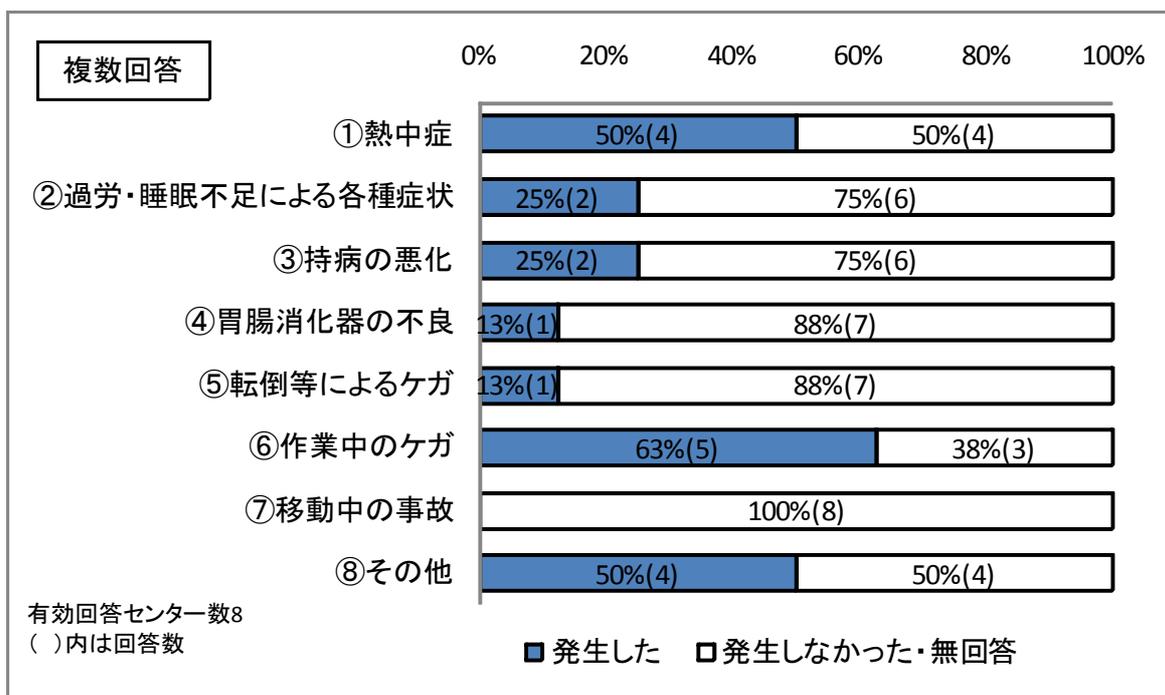


■ 図 2-8 ボランティア活動時のケガ・疾病の把握

また、ケガ・疾病の内容について、問7の質問に対しては、図2-9のとおりであった。

問7 どのようなケガ・疾病だったでしょうか。(複数回答可)

①熱中症 ②過労・睡眠不足による各種症状 ③持病の悪化
 ④胃腸消化器の不良 ⑤転倒等によるケガ(クギのふみぬき等)
 ⑥作業中のケガ(クギのふみぬき等)
 ⑦移動中の事故 ⑧その他(具体的な内容)



■ 図2-9 ケガ・疾病の内容

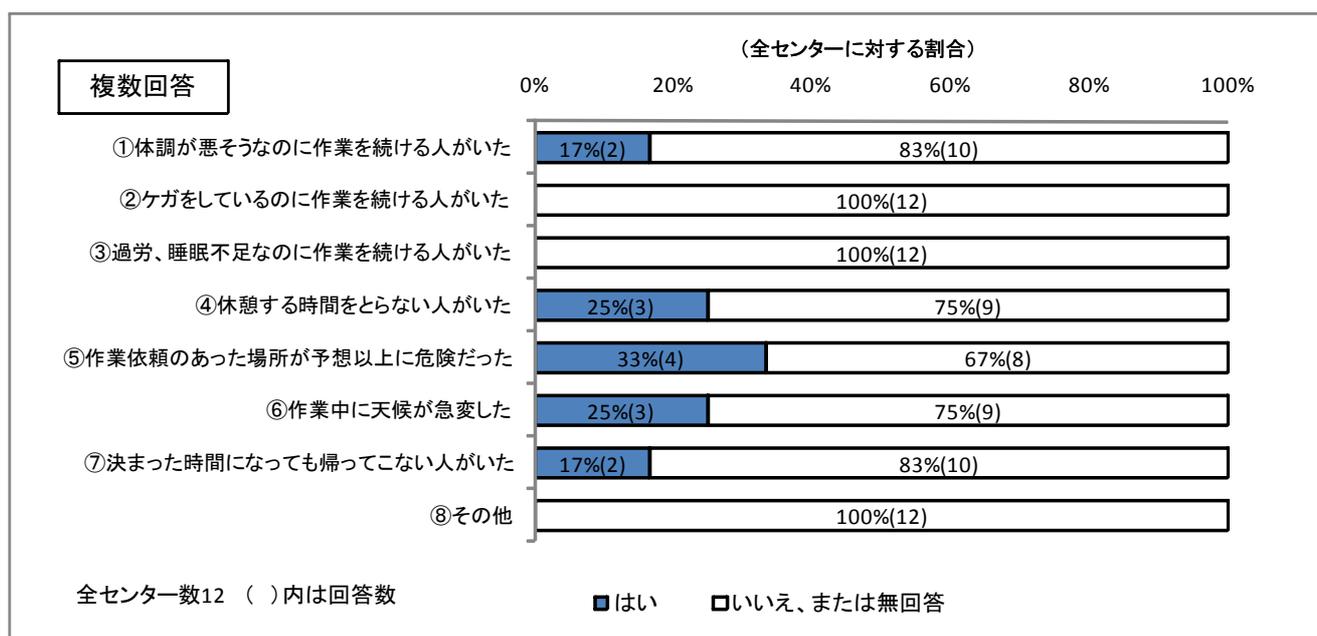
回答センター数は8で、5センターで作業中のケガ、4センターで熱中症、2センターで過労・睡眠不足による各種症状や持病の悪化、1センターで胃腸消化器の不良や転倒等によるケガが発生した。

また、その他の内容として、蜂や虫さされ、薬物や石灰による炎症が報告された。

また、問 7 の選択肢以外での安全衛生面でリスクにつながる行動があったかどうかについて、問 8 の質問に対しては、図 2-10 のとおりであった。

問 8 下記の様な事例がありましたか。(複数回答)

- ①体調が悪そうなのに作業を続ける人がいた
- ②ケガをしているのに作業を続ける人がいた
- ③過労、睡眠不足なのに作業を続ける人がいた
- ④休憩する時間をとらない人がいた
- ⑤作業依頼のあった場所が予想以上に危険だった
- ⑥作業中に天候が急変した
- ⑦決まった時間になっても帰ってこない人がいた
- ⑧その他



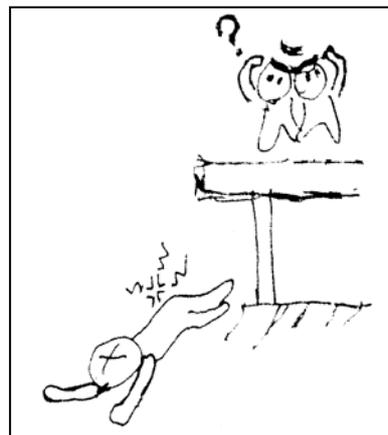
■ 図 2-10 安全衛生上リスクにつながる行動

「⑤作業依頼があった場所が予想以上に危険だった」と回答したセンターが 4 センター、「④休憩する時間をとらない人がいた」や「⑥作業中に天候が急変した」と回答したセンターがそれぞれ 3 センター、「①体調が悪そうなのに作業を続ける人がいた」や「⑦決まった時間になっても帰ってこない人がいた」と回答したセンターがそれぞれ 2 センターあった。

* 3 なぜ決まった時間の点呼が重要か

問 8 の選択肢については、被災地内で活動する際に直接リスクにつながる可能性のある行為を列挙したものである。

例えば「決まった時間になっても帰ってこない人がいた」は、被災地域内においては、斜面の崩落や二次災害を受ける恐れがあり、見えないところで動けなくなったりする者が発生する可能性があり、さらには、当日初めて顔を合わせる者同士で作業することも少なくなく、動けなくなった者を見逃してしまう可能性がある。このため、作業前、休憩時、作業完了後それぞれに点呼を行い、不明者が発生していないことを確認することが重要である。



また、二人一組でお互いの所在を確認し、顔色を見るなどにより健康状態をチェックしあう仕組み（バディ・システム）などを取り入れることも有効である。

その他、被災地域においては、被災者からの期待や、参加意欲の高い者が復旧活動に参加しているため、ケガをしていたり、体調が悪い人でも活動に参加したり、必要な休憩を取らずに活動を続けてしまう可能性がある。

これらは、思いもよらない事故や、被災地域の方や被災者も含めた過労、さらには作業にあたった者がなかなか 日常生活に戻れなくなるような症状にもつながりかねないリスクであり、作業計画等を立てる際には十分な配慮が必要である。

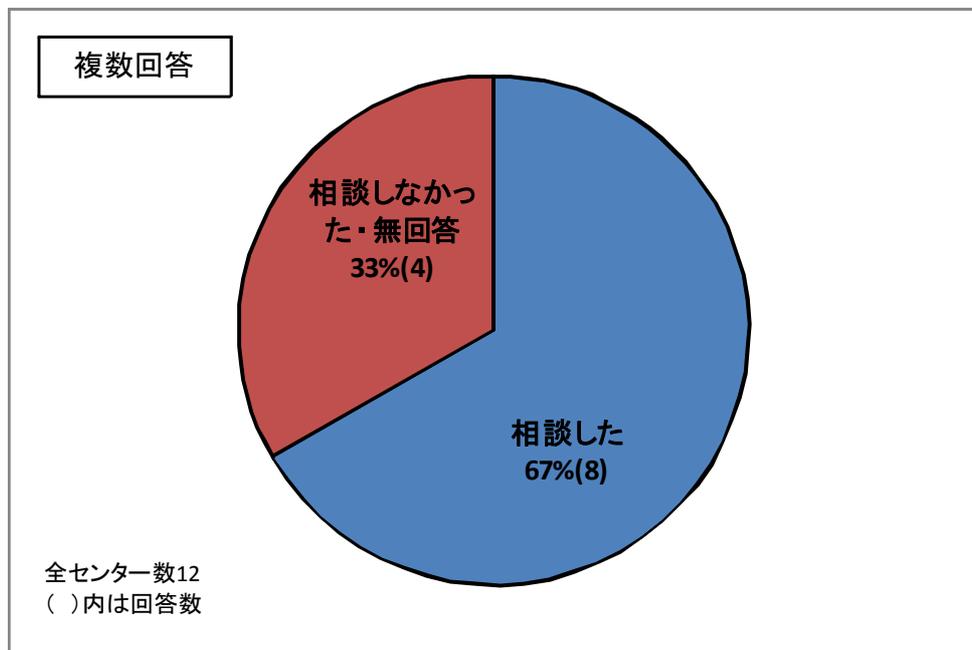
(2) 専門家への相談

有給／無給、義務・契約／自発に関わらず、通常の労働現場と同等のリスクのもとで活動する可能性があるため、平時から安全衛生の確保に携わっている専門家に相談しながら、活動を行っていくことが推奨される。

そこで、各センターにおいて、安全衛生についての専門家への相談の有無について、問 9 の質問に対しては、図 2-11 のとおりであった。

問 9 災害ボランティア活動の安全衛生について、どんな専門家に相談しましたか。

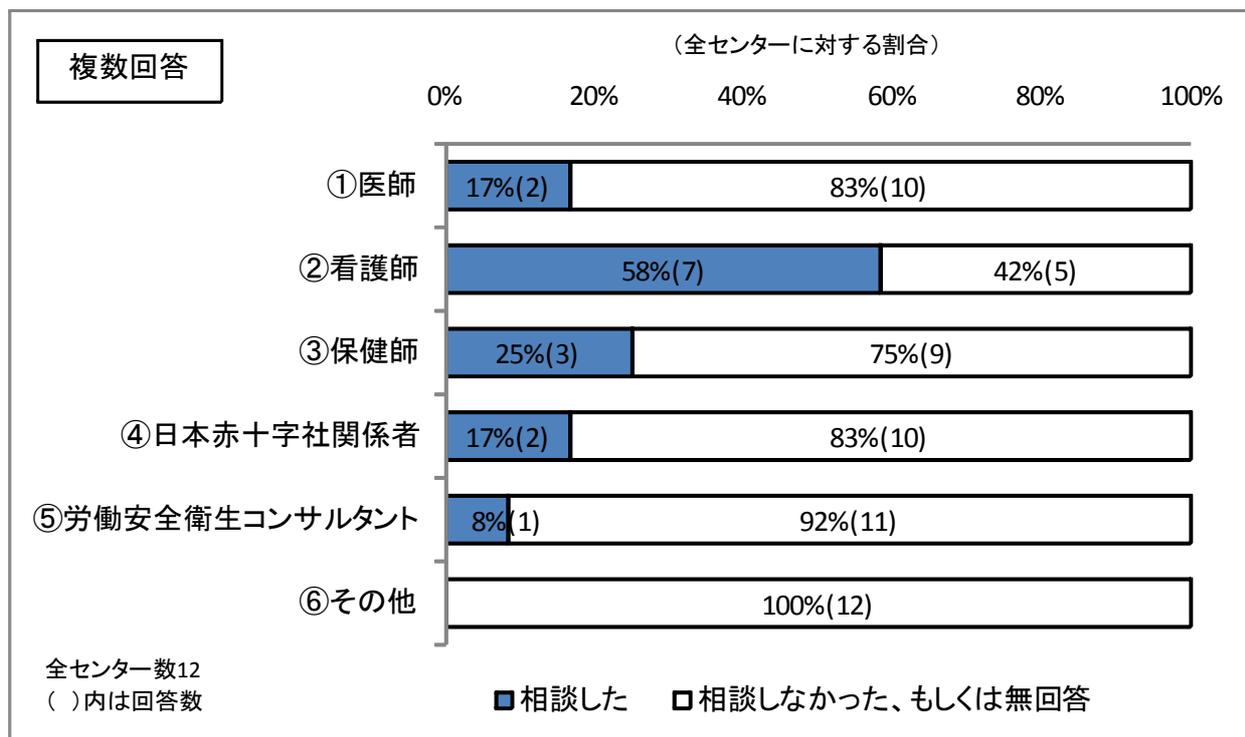
- ①医師 ②看護師 ③保健師 ④日本赤十字社関係者
⑤労働安全衛生コンサルタント ⑥その他（具体的な内容） ⑦特に相談していない



■ 図 2-11 専門家への相談の有無(全体)

ボランティア活動の安全衛生について、何らかの専門家に相談したのは 12 センター中 8 センターであった。

具体的に、どの分野の専門家に相談を行ったかについては、図 2-12 のとおりであった。



■ 図 2-12 相談した専門家の種類

安全衛生について専門家に相談を行ったセンターのうち、「②看護師」が 7 センター、「③保健師」が 3 センター、「①医師」や「④日本赤十字社関係者」が 2 センター、「⑤労働安全衛生コンサルタント」が 1 センターであった。

III. 資料編

Ⅲ. 資料編

3-1. 安全衛生のために使われる資機材・物資の例

			
<p>ヘルメット 頭部を保護する</p>	<p>防塵（ぼうじん）ゴーグル 目を保護する</p>	<p>防塵（ぼうじん）マスク 粉じんを吸い込まないようにする</p>	<p>通常のマスク 防塵（ぼうじん）マスクの簡易のもの</p>
			
<p>軍手 すべり止めのゴムが付いたものがある</p>	<p>ゴム引き手袋 手のひらの面にゴムが塗られており、手を保護する</p>	<p>ゴム手袋（防水） 手袋内に水が浸入するのを防ぐ</p>	<p>革手袋 手を保護する</p>
			
<p>安全靴（つま先や靴底に鉄板等が入ったもの） 足を保護する</p>	<p>タオル 汗や汚れのふき取り等を使用する</p>	<p>ペットボトルの水 水分を補い、熱中症等を予防する</p>	<p>塩分など 発汗等により失われた塩分やミネラル分を補う</p>
			
<p>救急セット 活動先での応急手当てができるようまとめたもの</p>	<p>携帯・トランシーバー 離れた場所と連絡を取り合う際に使用</p>	<p>消毒液 手洗い時に使用し、食中毒等を予防する</p>	<p>うがい薬 活動時のほこり等で汚れたのどを洗浄する</p>

<p style="text-align: center;">災害ボランティアセンターに関するアンケートのお願い</p> <p style="text-align: center;">平成21年度（平成21年4月から平成22年2月）に開設された 災害ボランティアセンター対象 内閣府 災害予防担当</p> <p>回答は、同封の返信用回答用紙にご記入ください。</p> <p>※このアンケートで「災害ボランティアセンター」とは、例えばボランティア希望者を受け付け、災害後に住民の方からのニーズやセンターの発意等に基づき、避難所運営支援や、復旧活動支援等を仲介するしくみを指します。名称にこだわらず、幅広い概念でとらえてお答えください。</p> <p>設置経緯</p> <p>1. 災害ボランティアセンター(以下、「センター」という。)の設置の経緯等について</p> <p>問1-1 センターについて、以下の項目にお答えください。 【回答形式に下記の項目が記されていますので、埋めてください】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) センターの正式名称 (2) 該当災害名 (3) 設置期間（運営日数） (4) センター長（代表者）の氏名と本来の役職 (5) センターの事務所の設置場所（例：「市町村役場内」、「社会福祉協議会内」など） (6) 設置時、最大時、閉塞時におけるセンターのスタッフの概数 (7) センターの運営スタッフ・組織名称と役割 (8) センターの設置に至った理由（選択） <ol style="list-style-type: none"> ①住民からのニーズ ②行政からの指示（地域防災計画の記述に準じた判断） ③外部ボランティア関係者からの要望 ④その他 (9) センターの立ち上げ・運営にあたった個人名あるいは団体名 (例：「〇〇町社会福祉協議会」、「NPO法人〇〇〇」など) ※立ち上げに、ボランティア団体などの複数の主体が関わった場合、その役割分担など構成についてもお答えください。 <p>問1-2 センターと自治体との連携内容についてお聞きます。下記のの中から該当するすべての番号をご記入ください。(複数回答可)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①災害対策本部の会議に災害ボランティアセンター関係者が出席した ②被災者のニーズに関する情報交換（電話やFAXなどによるやりとり） ③ボランティア活動に対する物資支援 ④センターの運営支援（運営ノウハウや人員の提供等） ⑤ボランティア活動に対する資金援助 ⑥行政からの被災状況等の情報提供 ⑦自治体の地域防災計画の中にボランティアに関する記述がある ⑧その他（連携の内容をお書きください） 	<p>問1-3 センターを通じて活動したボランティア活動について、以下の項目にお答え下さい。</p> <p>(1) ボランティア活動者数の集計方法 (例：「センター開設から閉鎖までの受付人数を集計」「ボランティア活動者から提出される、当日の活動報告書の人数を集計」など)</p> <p>(2) ボランティア活動者数（のべ人日の総計）</p> <p>(3) 活動状況の概要を把握できる参考資料の有無</p> <p>(4) 主な活動内容についてお選びください。また、具体的な活動内容もご記入ください。</p> <p>①家庭内 ②家屋外 ③その他</p> <p style="text-align: center;">資金</p> <p>2. センターの運営に関する資金について</p> <p>問2-1 センターの「初動時」の資金について、調達先すべてとその概算金額をお答えください。 (調達先) ①市区町村社会福祉協議会のボランティア基金 ②市区町村社会福祉協議会の④以外の費目（通常経費など） ③都道府県社会福祉協議会のボランティア基金 ④都道府県社会福祉協議会の⑥以外の費目（通常経費など） ⑤市区町村のボランティア基金 ⑤市区町村の⑤以外の費目（通常経費など） ⑥都道府県のボランティア基金 ⑥都道府県の⑦以外の費目（通常経費など） ⑦赤い羽根募金 災害ボランティア・市民活動支援制度 ⑧青年会議所など地域団体からの寄付金等 ⑧民間企業からの寄付金 ⑨地域外のボランティア団体の資金 ⑨民間企業からの寄付金 ⑩その他（財団・諸団体等からの寄付金等） ⑩（災害時以前より運営されていた）災害ボランティアセンター自身の活動基金等 (※⑨～⑩の場合は、調達先の名称もお答えください)</p> <p>問2-2 センターの「立上げ後」の資金について、調達先すべてとその概算金額をお答えください。 (調達先) ①市区町村社会福祉協議会のボランティア基金 ②市区町村社会福祉協議会の④以外の費目（通常経費など） ③都道府県社会福祉協議会のボランティア基金 ④都道府県社会福祉協議会の⑥以外の費目（通常経費など） ⑤市区町村のボランティア基金 ⑤市区町村の⑤以外の費目（通常経費など） ⑥都道府県のボランティア基金 ⑥都道府県の⑦以外の費目（通常経費など） ⑦赤い羽根募金の災害ボランティア・市民活動支援制度 ⑧青年会議所など地域団体からの寄付金等 ⑧民間企業からの寄付金 ⑨地域外のボランティア団体の資金 ⑨民間企業からの寄付金 ⑩その他（財団・諸団体等からの寄付金等） ⑩当該災害ボランティアセンター自身の活動基金等 (※⑨～⑩の場合は、調達先の名称もお答えください)</p>
---	--

ニーズ

3. ニーズの把握方法について

- 問3-1 センターの運営にあたり、被災者のニーズを把握した方法についてお答えください。(複数回答可)
- ①チャリン等の配布
 - ②自治会・町会関係者を通じた把握
 - ③民生児童委員等を通じた把握
 - ④ローラー作戦(地域一帯の聞き取り)
 - ⑤地元ボランティア関係者を通じた把握
 - ⑥行政からの情報提供
 - ⑦防災無線を通じた告知
 - ⑧その他
- 問3-2 ニーズの数とボランティア活動希望者の数の関係について、該当するものすべてにお答えください。
- ①ニーズの内容に対してボランティア活動希望者が足りなかったことがある。
 - ②ニーズの内容に対してボランティア活動希望者が余ってしまったことがある。
 - ③ニーズの内容とボランティア活動希望者数のバランスがとれていた。
- 問3-3 県からのボランティア活動希望者の受け入れを行いましたか、また受け入れた場合には何か配慮した点等があればお教えください。
- ①はい(何か配慮された点等があればご記入ください)
 - ②いいえ

マニュアル

4. センター設置・運営に関するマニュアル等(運営規則など)について

- 問4-1 センター設置・運営にあたり、事前にマニュアル等は作成していましたが、活用されませんでしたか。(回答④⑤についてはその理由もお書きください)
- ①マニュアル等は作成していませんでした。
 - ②マニュアル等は作成していたが、それが見つからなかった。
 - ③マニュアル等があり、実際に活用した。
 - ④マニュアル等があり、活用はしなかったが、参考にした。(理由もご記入ください)
 - ⑤マニュアル等があったが、全く使わなかった。(理由もご記入ください)
- 問4-2 「問4-1」で①以外をお答えいただいた方に:マニュアルの作成主体の名称と作成時期(年、できれば月)をご記入ください。
- (例:「〇〇市社会福祉協議会」、「〇〇県」、(NPO法人) など。複数ある場合は、複数列挙してください)
- 問4-3 内閣府では、センターの立上げに役立つ防災ボランティア活動の「情報・ヒント集」を公開しておりますが、公開されていることを知っていましたか。
- ①知っていた
 - ②知らなかった
 - ③知っていたが活用しなかった

研修

5. センター設置・運営に関わるスタッフの研修について

- 問5-1 被災した地元の運営スタッフの中には防災ボランティア活動、センター運営に関する研修を受けたことがある人がいますか。
- ①はい(参加者数、具体的な研修名称・時期についてもご回答ください)
 - ②いいえ

連携

6. 自治体との平時からの連携について

- 問6-1 平時に、センターの設置やボランティア希望者の受付・配分等も含めた「防災訓練」を実施していますか。
- ① はい
 - ②いいえ
- 問6-2 「問6-1」で①とお答えいただいた方に:その防災訓練は、自治体以外の組織と連携して実施していますか。(実施している場合、その主体名と訓練の概要をお答えください)
- ① はい(連携主体名、訓練概要をご記入ください)
 - ②いいえ
- 問6-3 防災を目的として、自治体とボランティア団体等との連携の場(協議会、連絡会議など)を設置していますか。(設置されている場合、その構成員と事務局となる主体をご記入下さい)
- ①はい(構成員と事務局となる主体をご記入ください)
 - ②いいえ
 - ③わからない

安全衛生

7. ボランティア活動時の安全衛生に関する配慮等

- 問7-1 防災ボランティア活動時のケガ・疾病予防や健康管理方法について、参加者等に周知したことがあれば、その内容と方法をすべてご記入ください。(複数回答可)
- 【周知する内容】
- A 活動環境(被災地の被害状況・天候など)
 - B 必要な服装・装備・作業場の心構え
 - C 作業手順等
 - D ケガ、疾病時の応急手当法
 - E ケガ、疾病時の現地連絡先(救護所など)
 - F 一定時間おきの休憩
 - G 天候急変時の対応
- 【周知方法】(複数あれば、すべてご記入ください)
- ①特に周知のための手当てはしなかった
 - ②センター内に張り紙等で掲示
 - ③参加者向けの説明会を実施
 - ④現場リーダーに通達
 - ⑤インターネット上に掲示

問7-2 その他、活動時のケガ・疾病予防方法の周知のための方策があればご記入ください。

問7-3 センターとして活動中の、ケガや疾病について把握していませんか。

- ①把握している
- ②把握していない

問7-4 「問7-3」で①と答えられた方に:どのようなケガ・疾病だったでしょうか。その内訳と件数をご記入ください。(複数回答可)

- ①熱中症
- ②過労・睡眠不足による各種症状
- ③時病の悪化
- ④胃腸消化器の不具合
- ⑤転倒等によるケガ
- ⑥作業中のケガ(クギのふみぬき等)
- ⑦移動中の事故
- ⑧その他(具体的な内容をお書きください)

問7-5 ケガや疾病には至らないものの、下記のような事例はありましたか。(複数回答可)

- ①体調が悪そうなのに作業を続ける人がいた
- ②ケガをしているのに作業を続ける人がいた
- ③過労、睡眠不足なのに作業を続ける人がいた
- ④休憩する時間をとらない人がいた
- ⑤作業依頼のあった場所が予想以上に危険だった
- ⑥作業中に天候が急変した
- ⑦決まった時間になっても帰ってこない人がいた
- ⑧その他(具体的な内容をお書きください)

問7-6 災害ボランティア活動の安全衛生について、どのような専門家に相談しましたか。(複数回答可)

- ② 看護師
- ③ 医師
- ④ 日本赤十字社関係者
- ⑤ 保健師
- ⑥ 労働安全衛生コンサルタント
- ⑦ その他 (具体的な内容をお書きください)
- ⑧ 特に相談していない

8. ボランティア活動の安全衛生に関わる資機材・物資について

問8-1 センター等で準備した資機材・物資について、その大まかな数量と、主な調達先をお答えください。
(調達先については、「備蓄済み」〜から受領)「地元商店から購入」などとお書きください。)

- ① 救急箱などの救急用品セット
- ② 消毒液
- ③ 消臭剤
- ④ AED (自動体外式除細動機)
- ⑤ 連絡用の携帯電話
- ⑥ トランシーバー
- ⑦ 軍手
- ⑧ ゴム引き手袋 (衛運び向け)
- ⑨ ゴム手袋 (防水)
- ⑩ 防護ゴーグル
- ⑪ ヘルメット
- ⑫ 防護マスク
- ⑬ 通常のマスク
- ⑭ 防護マスク
- ⑮ 安全靴
- ⑯ タオル
- ⑰ ベットポトルの水
- ⑱ 高圧洗浄機 (汚泥等を洗い流す)
- ⑲ その他 (自由回答)
- ⑳ (熱中症予防の) 塩分など

問8-2 調達したきつかけはどのようなものですか。(いずれかを回答)

- ① ボランティアや関係者から必要との指図を受けた
- ② センター (スタッフ) が必要と判断し自発的に
- ③ マニュアルや規定等で決められている
- ④ その他 (具体的な内容をお書きください)

問8-3 調達の際に困ったことはありませんか。(複数回答可)

- ① 購入調達先が分からなかった
- ② 購入調達のための資金が足りなかった
- ③ 購入先から安定して十分な量が確保できなかった
- ④ その他 (具体的な内容をお書きください)

問8-4 資金があれば調達したものは何でしょうか。(自由回答)

問8-5 その他、センターの安全衛生のために必要な資機材・物資等があればご記入ください。(自由回答)

9. 防災ボランティア活動の環境整備について、感想・提案等があれば自由にご記入ください。

(例：役だった支援物資、役立ったノウハウ、活躍したボランティア団体、今回のセンター設置の成果・課題、今後の設置に向けての目標・課題 等)

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございます。

【調査に関する問い合わせ・資料の送付先】

株式会社ダイナックス都市環境研究所 (担当：津賀、橋本、渡辺)
TEL: 03-3580-8221 FAX: 03-3580-8265
〒105-0003 東京都港区西新橋2-11-5 T K K西新橋ビル3F

～質問票:ここまで(5/5)～

災害ボランティアセンターに関するアンケート回答用紙

都道府県	区市町村
部署	担当者名
電話	FAX
E m a i l	

【記入上の注意】記述はわかりやすいように大きくご記入ください。

(1) 正式名称:		
(2) 災害名:		
(3) 設置期間:	平成21年 月 日 ~ 月 日 (運営日数: 日)	
(4) センター長名:	(役職:)	
(5) 事務局の設置場所:		
(6)	職員スタッフ	ボランティアスタッフ
	設置時	名
	最大時	名
	閉塞時	名
(7) スタッフの組織名称		
・職員	団体名 () 役割 ()	
・ボランティア	団体名 () 役割 ()	
※上記に書ききれない場合は、そのリストを別添してください。		
(8) 設置に至った理由:	回答番号 「④その他」の場合、具体的な内容をご記入下さい。(可能な範囲で結構です) ()	
(9) 個人名あるいは団体名と役割	名称 () 役割 () 名称 () 役割 () 名称 () 役割 ()	
※上記に書ききれない場合は、そのリストを別添してください。		
回答番号 (複数回答可):		
「⑧その他」の場合、具体的な内容をご記入下さい。(可能な範囲で結構です)	()	

～回答用紙:次のページに続く(1/4)～

(1) 集計方法:	
(2) 活動者数 (のべ人数):	のべ 名
(3) 資料の有無:	
(4) 主な活動内容 (回答番号):	
具体的な活動内容	()

2-1	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
2-2	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円

※上記に書ききれない場合は、そのリストを別添してください。

3-1	回答番号:	「⑧その他」の場合、具体的な内容をご記入下さい。(可能な範囲で結構です)
	()	
3-2	回答番号:	
3-3	回答番号:	「⑩はい」の場合、何か配慮された点等をご記入下さい。(可能な範囲で結構です)
	()	

4-1	回答番号:	
	理由:	
4-2	作成主体 (複数列挙可):	
4-3	回答番号:	

5-1	回答番号:	
	回答が①の場合、	
	参加人数: () 名	
	時期: 平成 年 月 日 ~ 月 日	
	研修名:	

※上記に書ききれない場合は、そのリストを別添してください。

～回答用紙:次のページに続く(2/4)～

6-1	回答番号：	
6-2	回答番号： 主体名（複数列挙可）： 訓練概要：	
6-3	回答番号： 構成員（複数列挙可）： 事務局（複数列挙可）：	

7-1	周知する内容 回答欄（周知方法）	
	A 活動環境（被災地の被害状況・天候など）	
	B 必要な服装・装備・作業上の心構え	
	C 作業手順等	
	D ケガ、疾病時の応急手当法	
	E ケガ、疾病時の現地連絡先（救護所など）	
	F 一定時間おきの休憩	
	G 天候急変時の対応	
7-2	その他対策：	

7-3	回答番号：		
7-4	回答番号 (複数回答可)	①熱中症 ②疲労・睡眠不足 ③持病 ④胃腸消化器 ⑤作業中のケガ ⑥移動中の事故 ⑦その他	件 件 件 件 件 件 件
7-5	回答番号（複数回答可）：		
7-6	回答番号（複数回答可）：		

8-1	用品名	回答欄	数量	調達先
	①救急箱などの救急用品セット			組
	②消毒液		本（大きさ ml）	
	③うがい薬		本（大きさ ml）	
	④AED（自動体外式除細動機）		台	
	⑤連絡用の携帯電話		台	
	⑥トランシーバー		台	
	⑦軍手		組	
	⑧ゴム手袋（防水）		組	
	⑨ゴム引き手袋（荷運び向け）		組	
	⑩革手袋		組	
	⑪ヘルメット		個	
	⑫防護ゴーグル		個	
	⑬通常のマスク		個	
	⑭防護マスク		個	
	⑮安全靴		足	
	⑯タオル		枚	
	⑰ペットボトルの水		本（大きさ ml）	
	⑱（熱中症予防の塩分など		人分 又は	kg
	⑲高圧洗浄機（汚泥等を洗い流す）			
	⑳その他：			
8-2	回答番号： 「④その他」の場合、具体的な内容をご記入下さい。（可能な範囲で結構です）			
8-3	回答番号（複数回答可）： 「④その他」の場合、具体的な内容をご記入下さい。（可能な範囲で結構です）			
8-4	調達したかったもの：			
8-5	資機材・物資：			

9	(例：使った物資・ノウハウ、活躍したボランティア団体、今回のセンター設置の成果・課題、今後の設置に向けての目標等)
---	---

アンケートにご協力いただきありがとうございます。

FAX 03-3580-8265

～回答用紙:ここまで (4/4)～

～回答用紙:次のページに続く (3/4)～